

歯科医学総合講義 2 : 540-2-DP1・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7・DP8

年次	学期	学則科目責任者
2年次	後学期	2年次学年教育主任

学修目標 (G I O) と単位数	学修目標 (G I O) : 社会の要請に応える創造性と人間性豊かで自立する全人的な歯科医師になるため、これまで講義や実習で学んだ内容を統合し、松戸歯学部 student doctor として必要な態度・知識・技能を修得する。 単位数 : 2
担当教員	吉垣 純子、*渋谷 鑛、近藤 信太郎、*遠藤 弘康、*伊藤 孝訓、岡田 裕之、*青木 伸一郎、栞原 紀子、*齋藤 真規、落合 智子、*久山 佳代、三枝 禎、*金田 隆、谷本 安浩、竹内 麗理、加藤 治、*横山 愛、河野 哲朗、玉村 亮、山根 潤一、松本 裕子、*伊東 浩太郎
教科書	各科目の教科書を使用する。 各科目参照 各科目参照
評価方法 (E V)	定期試験の成績を評価点とする。ただし、当該学年に配置された全科目のうち、授業時間数の1/5以上を欠席した科目が1科目以上ある者の成績は、0~60点とする(試験の成績が60点を超す場合であっても60点とする)。 定期試験で成績が60点に満たない者にたいしては再試験を実施する。ただし、当該学年に配置された全科目のうち、授業時間数の1/5以上を欠席した科目が1科目以上ある者は、再試験を受ける資格が与えられない。 定期試験を欠席し追試験を希望する者は、速やかに正当な理由を証明する書類を提出すること。審議の上、追試験の受験資格の有無を決定する。
学生へのメッセージ オフィスアワー	1年次の基礎生命化学、2年次で学修する授業内容について、自身の得意分野、不得意分野を把握すること。また、授業を通して、効果的な自学自習の行い方を身につけて欲しい。 注意：本講義は、各科目のまとめなので、講義開始日を遅らせ11月19日から開始し、2月5/6/7日に集中講義で行う。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/25 (月) 1時限 09:00~10:30	医学・歯科医学史	<p>【授業の一般目標】 歯科医学の歴史(史実)について学ぶ。歯科医学に関係した人物史の理解、歯科医学教育の発展経過、歯科医事衛生史を中心に学修する。わが国における医学・歯科医学の発展の概略を知り、とくに近代歯科医学の発展進歩を知ることには過去から現在への検証とともに未来を予測することへの一助となる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 近代歯科医学の発展経過について理解する。 2. 歯科医学の発展に貢献した人物史について学ぶ。 3. 歯科医療・歯科医事に関して歴史的に考察することができる。 4. わが国固有の木床義歯について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：1年次の医療行動科学2において学習した歯科医学史についての復習と総括。「スタンダード歯科医学史」(医療行動科学2教科書)の歴史年表の確認をする。 事前学修時間：1時間 事後学修項目： 事後学修時間：</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 13 一般教養的事項 ア 医学史、歯科医学史</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 13 一般教養的事項 イ 医学・医療に関する人文、社会科学、自然科学、芸術などに関連する一般教養的知識や考え方</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	*渋谷 鑛
2019/12/02 (月) 1時限 09:00~10:30	歯の解剖学	<p>【授業の一般目標】 臨床および関連科目を学ぶために必要な歯の解剖学の知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 個々の歯の形態的な特徴を説明する。 2. 歯の左右の違いを説明する。</p>	近藤 信太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/02 (月) 1時限 09:00～10:30	歯の解剖学	<p>3. 歯と歯周組織の構造を説明する。 4. 歯列と咬合の形態を説明する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：1年次で学んだ「歯の解剖学」を復習する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：配布プリントを復習する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 5 歯と歯周組織の構造 ア 歯の形態 a 基本事項</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 5 歯と歯周組織の構造 ア 歯の形態 b 乳歯 c 永久歯 d 特殊な形態</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 ②歯種別の形態と特徴を説明できる。 ④歯（乳歯、根未完成歯、幼若永久歯を含む）の硬組織の構造、機能及び構成成分を説明できる。</p>	近藤 信太郎
2019/12/09 (月) 1時限 09:00～10:30	医療行動科学3 (医療倫理学)	<p>【授業の一般目標】 全人的歯科医療を実践するために医療倫理学を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 基本的人権の尊重について概説できる。 3. 医の倫理に関する規範・国際規範を説明できる。 4. インフォームド・コンセントの定義と重要性を説明できる。 5. 歯科医師の裁量権と患者の自己決定権について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目：2年次で学んだ「医療倫理学」の復習をする。 ・準備学修時間：60分 ・事後学修項目：配布資料を振り返る。 ・事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・スライド、講義内容プリントなどの配布資料</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム ア 医の倫理、生命倫理 b 医療者の論理（ニュルンベルグ綱領、ジュネーブ宣言など）</p> <p>【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-1 プロフェッショナリズム A-1-1) 医の倫理と生命倫理 ①医の倫理と生命倫理の歴史経過と諸問題を概説できる。 ②医の倫理に関する規範・国際規範（ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等）を概説できる。 ③臨床（生と死に関わる問題を含む）に関する倫理的問題を説明できる。</p>	*伊藤 孝訓 *遠藤 弘康
2019/12/16 (月) 1時限 09:00～10:30	生化学	<p>【授業の一般目標】 前期に終了した生化学の全領域に対する問題を解くことで、再度、理解を深める。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 生体を構成する基本物質について説明できる。 2. 遺伝子や染色体について説明できる。 3. 細胞外基質や情報伝達の機序を説明できる。 4. 炎症の成り立ちを説明できる。 5. 唾液の作用や歯を構成するタンパク質を説明できる。 6. う蝕や歯周病の病態を説明できる。</p>	竹内 麗理

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/16 (月) 1時限 09:00～10:30	生化学	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：2年次前期で学んだ「生化学」の総復習を行う。 事前学修時間：3時間 事後学修項目：授業配布プリントを見直す。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有，ピア・インストラクション Web Classにより問題を出題し順次解答する方式</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 a 生体構成成分の構造・機能</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 a 生体構成成分の構造・機能 b ゲノム、遺伝子、染色体 c 細胞・細胞小器官の構造と機能 d 組織（上皮組織、結合〈支持〉組織（血液を含む）、筋組織、神経組織） イ 全身・口腔の生態系 c プラーク〈口腔バイオフィルム〉 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症 歯科医学各論 各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患 1 歯の硬組織疾患 ア 歯の硬組織疾患の病因と病態 a 齲蝕の病因</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 生命の分子の基盤 C-2-1) 生命を構成する基本物質 ①アミノ酸とタンパク質の構造、機能及び代謝を説明できる。 ④生体のエネルギー産生と利用を説明できる。 C-2-2) 遺伝子と遺伝 ①核酸、遺伝子及び染色体の構造と機能を説明できる。 ②デオキシリボ核酸(DNA)複製と修復の機序を説明できる。 ③転写と翻訳の過程と調節機序を説明できる。 ④遺伝性疾患の発生機序を説明できる ⑤遺伝子解析や遺伝子工学技術を説明できる。 C-2-3) 細胞の構造と機能 ③細胞周期と細胞分裂を説明できる。 C-2-4) 細胞の情報伝達機構 ③主な細胞外マトリックス分子の構造と機能、合成と分解を説明できる。 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。</p>	竹内 麗理
2019/12/23 (月) 1時限 09:00～10:30	生理学	<p>【授業の一般目標】 臨床および関連科目を学ぶために必要な人体の正常機能についての知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 器官系の分類および役割を説明できる。 2. 恒常性維持における神経系の役割を説明できる。 3. 恒常性維持における内分泌の役割を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：これまでの平常試験に出された問題を復習する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：配布する練習問題を解き、解説を作成する。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 練習問題を配付資料としてアップロードしておくので、自力で解いてみること。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系（骨格系（関節を含む）、筋系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、消化器系（歯および唾液腺を含む）、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/23 (月) 1時限 09:00～10:30	生理学	<p>必修の基本的事項 6 人体の発生・成長・発達・加齢 エ 加齢、老化 b 高齢者の生理的特徴</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 C-3-4) - (5) 神経系 ⑧神経の活動電位の発生と伝導の機序を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑦下顎の随意運動と反射を説明できる。 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ⑨口腔・顎顔面領域の体性感覚の特徴と疼痛を説明できる。</p>	吉垣 純子 加藤 治 *横山 愛
2020/01/14 (火) 1時限 09:00～10:30	解剖学 (第1回)	<p>【授業の一般目標】 臨床と関連科目の学習に必要な人体の構造に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 全身の骨格系の構造を説明する。 2. 全身の筋系の構造を説明する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：2年次前期で学んだ「解剖学」のうち運動器系の復習を行う。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：配布プリントを使って復習する。 事後学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系 (骨格系 (関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、消化器系 (歯および唾液腺を含む)、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 イ 運動・骨格系 a 骨 b 筋</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (2) 支持組織と骨格系 ①人体の基本的な骨格系と骨の結合様式を説明できる。 C-3-4) - (3) 筋組織と筋系 ③全身の主要な筋の肉眼的構造、作用及び神経支配を説明できる。</p>	近藤 信太郎
2020/01/20 (月) 1時限 09:00～10:30	組織・発生学 (第1回)	<p>【授業の一般目標】 人体を構成する細胞・組織・器官の構造を理解する。 人体の発生における組織構造および発生機序を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 人体を構成する細胞・組織・器官の構造や特徴を説明できる。 2. 人体の発生における組織構造および発生機序を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：人体を構成する細胞・組織・器官の特徴および人体発生 事前学修時間：60分 事後学修項目：人体を構成する細胞・組織・器官の特徴および人体発生についての復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：PPT等</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能</p>	岡田 裕之 玉村 亮 河野 哲朗

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/01/20 (月) 1時限 09:00～10:30	組織・発生学 (第1回)	ア 全身・口腔の構造と機能 d 組織 (上皮組織、結合 (支持) 組織 (血液を含む)、筋組織、神経組織) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4 身体を構成する組織と器官 C-3-4-(1) 上皮組織と皮膚・粘膜系 ①上皮組織の形態、機能及び分布を説明できる。 ②皮膚と粘膜の基本的な構造と機能を説明できる。 ③腺の構造と分布及び分泌機構を説明できる。	岡田 裕之 玉村 亮 河野 哲朗
2020/02/05 (水) 1時限 09:00～10:30	医療行動科学4 (医療心理学)	【授業の一般目標】 全人的な歯科医療を実践するために心理学の役割を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 歯科医学における心理学の役割を説明できる。 3. 記憶について説明できる。 4. 学習の動機付けについて説明できる。 5. 心理検査の特徴を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・準備学修項目: 2年次で学んだ「医療行動科学4」の復習 ・準備学修時間: 60分 ・事後学修項目: 配布資料を振り返る。 ・事後学修時間: 30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無・スライド、講義内容プリントなどの配布資料 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 102教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 9 診察の基本 ウ 医療面接 c 聴取事項 (主訴、現病歴、既往歴、家族歴、患者・家族の考え方・希望) 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 9 診察の基本 ウ 医療面接 a 意義、目的 (医療情報の収集・提供、患者歯科医師関係の確立、患者の指導、動機付け、治療への参加) b マナー (身だしなみ、挨拶、態度、会話のマナー、コミュニケーションの進め方、プライバシーの保護、感情面への対応) 【コアカリキュラム】 A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 A-4 コミュニケーション能力 A-4-1 コミュニケーション ①コミュニケーションの意義、目的と技法 (言語的・準言語的・非言語的) を説明できる。 ②コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。	*伊藤 孝訓 *青木 伸一郎
2020/02/05 (水) 2時限 10:40～12:10	細菌学 (微生物学)	【授業の一般目標】 医療従事者として感染症への正しい対処法を身につけるために病原微生物に対する基本的な知識を習得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 病原微生物の種類と特性を説明できる。 2. 感染経路、発症機序を説明できる。 3. 感染予防対策を説明できる。 4. 口腔感染症の病因論、全身への影響について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 2年次で学んだ「微生物学」の復習を行う。 事前学修時間: 1時間 事後学修項目: 行動目標の復習 事後学修時間: 1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 102教室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 カ 感染症 b 病原微生物 【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能	栞原 紀子 *齋藤 真規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/02/05 (水) 2時限 10:40～12:10	細菌学 (微生物学)	イ 全身・口腔の生態系 a 常在微生物叢 b 微生物の構造・一般性状 c プラーク<口腔バイオフィルム> 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 ③感染症の種類、予防、診断及び治療を説明できる。 ④滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明できる。 ⑤化学療法の目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明できる。	栗原 紀子 *齋藤 真規
2020/02/05 (水) 3時限 13:10～14:40	細菌学 (免疫学)	【授業の一般目標】 医療従事者として感染症への正しい対処法を身につけるために生体防御機能としての免疫の基本的な知識を習得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 免疫応答の基本的な概念を説明できる。 2. 免疫システムの破綻によるアレルギーや自己免疫疾患を説明できる。 3. 口腔特有の免疫システムを説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：2年次で学んだ「免疫学」の復習を行う。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：行動目標の復習 事後学修時間：1時間 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 学修媒体：Web classのチェックテストを解いておく。 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 102教室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 f 免疫 (免疫担当細胞、自然免疫、体液性免疫、細胞性免疫、粘膜免疫) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 3 免疫 ア 免疫系担当臓器・細胞 イ 抗原処理と抗原提示 ウ 自然免疫 a 体液性免疫 b 細胞性免疫 オ 粘膜免疫 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ①自然免疫の種類と機能を説明できる。 ②獲得免疫の種類と機構を説明できる。 ③免疫系担当臓器・細胞の種類と機能を説明できる。 ④抗原提示機能と免疫寛容を説明できる。 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑥免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑦粘膜免疫を説明できる。 ⑧ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明できる。	落合 智子
2020/02/06 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科材料学	【授業の一般目標】 歯科生体材料・歯科材料の種類、組成、性質および取り扱い方について理解する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 金属材料、高分子材料、セラミック材料および複合材料の性質について説明できる。 2. 歯科生体材料・歯科材料の力学的、物理的および化学的性質について説明できる。 3. 印象材の種類、組成および性質について説明できる。 4. 歯科用石膏の種類、組成および性質について説明できる。 5. ワックスパターンの変形の原因およびその対策について説明できる。 6. 歯科用金属の種類、組成および性質について説明できる。 7. 合着・接着用材料の種類、組成および性質について説明できる。 8. 成形修復材料の種類、組成および性質について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：歯科生体材料の種類および取り扱い方について教科書および配布資料で確認し、2年次に学修した「歯科材料学」の講義内容を復習する。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：「歯科材料学」において配布した講義プリント内の試験問題 (主に国試過去問) を解き、選択肢の正誤の理由を整理する。 事後学修時間：1時間	谷本 安浩

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/02/06 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科材料学	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 a 基本的性質</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 セ 歯科材料・機器 c 印象用材料 d 模型用材料、ワックス h 接着用材料、接着処理 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 5 成形修復・予防充填・歯内療法用材料 ア 成形修復用材料 a コンポジットレジン b グラスアイオノマーセメント、レジン添加型グラスアイオノマーセメント 6 歯冠修復・義歯用材料 ウ 金属材料 a 金合金 b 銀合金、金銀パラジウム合金 c 陶材焼付用合金 d コバルトクロム合金 e チタン、チタン合金</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具） D-1 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途 ①歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の所要性質と用途を説明できる。 ②材料の物理的（力学的性質と熱的性質を含む）、化学的（溶解性を含む）、生物学的（生体活性、副作用を含む）性質とその評価法を説明できる。 D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法 ③接着・合着・仮着用材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法を説明できる。</p>	谷本 安浩
2020/02/06 (木) 2時限 10:40～12:10	病理学	<p>【授業の一般目標】 疾病の病因・病態、ならびにそれらを結びつけている過程・経過における変化や現象を理解し、その成り立ちや理論に関することを修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 病因（内因・外因）について説明できる。 2. 6大病変に分類できる。 3. 6大病変それぞれの成り立ちや形態的变化を理解できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：「解剖学」および「組織学」の復習を行う。 事前学修時間：30分 事後学修項目：6大疾患の分類と概念を整理する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有 Webclass</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 a 健康・疾病の概念</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ア 内因、外因 a 代謝障害（変性） d 創傷治癒 a 全身の循環障害 d 炎症に関与する細胞 a 概念 d 分類と病態 e 組織学的構造 g 腫瘍と宿主の関係</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-1) 病因論と先天異常</p>	*久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/02/06 (木) 2時限 10:40～12:10	病理学	<p>①染色体、遺伝子及び発生の異常を説明できる。 C-5-2) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮 ②変性と関連疾患の病態を説明できる。 ③疾患における壊死とアポトーシスを説明できる。 ④萎縮と仮性肥大を説明できる。 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びびうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ②血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ④塞栓の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。</p>	*久山 佳代
2020/02/06 (木) 3時限 13:10～14:40	薬理学	<p>【授業の一般目標】 薬理作用・薬物動態・薬物治療の基盤となる概念について振り返る。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. これまで学修した薬理作用・薬物動態・薬物治療の基盤となる概念を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 2年次で学んだ「薬理学」の復習を行う。 準備学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 12 治療の基礎・基本手技 コ 薬物療法 a 薬理作用 (薬力学、主作用および副作用を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-6 生体と薬物 C-6-2) 薬理作用 ①薬理作用の基本形式と分類を説明できる。 ②薬物作用とその作用機序を説明できる。 ③薬理作用を規定する要因 (用量と反応、感受性) を説明できる。 ④薬物の連用の影響 (耐性、蓄積及び薬物依存) を説明できる。 ⑤薬物の併用 (協力作用、拮抗作用、相互作用) を説明できる。 C-6-3) 薬物の適用と体内動態 ①薬物の適用方法の種類と特徴を説明できる。 ②薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) について、加齢、病態による違いや薬物の相互作用による変化を含め、説明できる。 C-6-1) 薬物と医薬品 ①医薬品の分類を説明できる。</p>	三枝 禎
2020/02/07 (金) 1時限 09:00～10:30	放射線学	<p>【授業の一般目標】 歯科医師として適切な画像検査や機器管理ができるようになるために、各種撮影法の原理や特徴および読影を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 各種撮影法の原理を説明できる。 2. 放射線の影響と防護を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：2年次で学んだ「放射線学」の範囲の復習を行う。 事前学修時間：1時間 事後学修項目：2年次で学んだ「放射線学」の範囲の理解を深める。 事後学修時間：1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有, 予習30分</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 カ 画像検査 a 放射線の性質と作用</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 検査</p>	*伊東 浩太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/02/07 (金) 1時限 09:00～10:30	放射線学	<p>2 画像検査 ア エックス線画像の原理 b 放射線の単位・測定 a 医療画像システム<PACS> b 患者と医療従事者の放射線防護 c パノラマエックス線検査 a 原理、特徴、適応</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査を用いた診断 ①放射線の種類、性質、測定法と単位を説明できる。 ②放射線の人体(胎児を含む)への影響の特徴(急性影響と晩発影響等)を説明できる。 ③放射線防護の基準と方法を説明できる。 ④エックス線画像の形成原理(画像不良の原因を含む)を説明できる。 ⑤エックス線撮影装置とその周辺機器の原理と管理技術を説明できる。 ⑥口内法エックス線検査の種類と適応及びパノラマエックス線検査の適応を説明できる。 ⑦口内法エックス線画像とパノラマエックス線画像の読影ができる。 ⑧顎顔面頭蓋部エックス線検査の種類及び適応を説明できる。 ⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(computed tomography <CT>)、歯科用コーンビームCT、磁気共鳴撮像法(magnetic resonance imaging <MRI>)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	*伊東 浩太郎
2020/02/07 (金) 2時限 10:40～12:10	解剖学(第2回)	<p>【授業の一般目標】 臨床と関連科目の学習に必要な人体の構造に関する知識を習得する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 全身の脈管系の構造を説明する。 2. 全身の神経系の構造を説明する。 3. 消化器・呼吸器・泌尿器の構造と機能を説明する。 4. 感覚器の構造と機能を説明する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目: 2年次で学んだ「解剖学」のうち脈管系, 神経系, 内臓, 感覚器系の復習を行う。 事前学修時間: 1時間 事後学修項目: 配布プリントを復習する。 事後学修時間: 30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無 プリントを配布する。</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 5 人体の正常構造・機能 ア 全身・口腔の構造と機能 e 器官系(骨格系(関節を含む)、筋系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、消化器系(歯および唾液腺を含む)、造血器系、泌尿器・生殖器系、神経系、内分泌系、感覚器系)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ウ 呼吸器・循環器系 b 心臓、脈管系 a 気道、肺、呼吸筋 b 肝臓、胆道、膵臓 4 頭頸部の構造 カ 頭頸部の神経系 a 脳神経</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4)-(4) 血液・リンパと循環器系 ①心臓の構造、発生、機能及び心電図波形を説明できる。 ②血液循環(肺循環、体循環及び胎児循環)の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 C-3-4)-(7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 ②肝臓の構造と機能及び胆汁と胆道系を説明できる。 ③膵臓(外分泌部と内分泌部)の構造と機能を説明できる。 C-3-4)-(8) 呼吸器系 ①気道系の構造と機能を説明できる。 ②肺の構造・機能と呼吸運動を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑤脳神経の走行、分布及び線維構成を説明できる。</p>	近藤 信太郎
2020/02/07 (金) 3時限 13:10～14:40	組織・発生学(第2回)	<p>【授業の一般目標】 口腔を構成する細胞・組織の形態的特徴を理解する。 顔面および歯の発生における組織構造を理解する。</p>	岡田 裕之 玉村 亮 河野 哲朗

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/02/07 (金) 3時限 13:10～14:40	組織・発生学 (第 2回)	<p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔を構成する細胞・組織の形態的特徴を説明できる。 2. 顔面および歯の発生における組織構造を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：口腔を構成する細胞・組織の特徴や顔面および歯の発生における形態的特徴 事前学修時間：60分 事後学修項目：口腔を構成する細胞・組織の特徴や顔面および歯の発生における形態的特徴についての復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：PPT等</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢 4 頭頸部の構造 オ 頭頸部の内臓系 a 口腔</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (7) 消化器系 ①消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口腔領域の構造と機能 ②口唇と口腔粘膜の分類と特徴を説明できる。 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 ①歯の発生、発育及び交換の過程と変化を説明できる。 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口腔・顎顔面領域の発生と加齢変化 ①口腔・顎顔面領域の発生を説明できる。</p>	岡田 裕之 玉村 亮 河野 哲朗